

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

事業課題名	『申報』データベースの充実
代表者名	村上 衛
事業概要 (600 字程度)	<p>北京愛如生数字化技術研究中心のデータベース「中国近代報刊庫」は清末から中華民国時代に刊行された新聞・雑誌などの出版物の総合的なデータベースである。そのうち要刊編は重要な定期刊行物を、大報編は主要な新聞を対象としている。本学は平成 28-29 年度大型コレクションとして大報編『申報』・「要刊編 1」・「要刊編 2」を購入し、昨年度の本事業では「要刊編 3」を導入した。今年度の事業では大報編の『申報』のユーザー数を 1 追加した。</p> <p>『申報』は 1872 年 4 月にイギリス人貿易商のアーネスト・メジャーが上海で創刊した中国語日刊紙である。その後、20 世紀初頭に経営権は中国人の手に渡ったが、自由な言論を展開して発行部数をのばした。1930 年代には国民党の影響が強まり、日中戦争期には一時停刊することもあったが、最終的に 1949 年 5 月に廃刊となるまで、77 年間刊行され、近代中国において最も発行期間が長く、最も影響力のある新聞となった。本データベースは 1872 年～1949 年の全世界で収録されている副刊・専刊・増刊・特刊を含む全記事・広告を収録したもので、上海版以外に、日中戦争期に刊行された漢口版・香港版も含み、27,534 号、42 万ページ、18 億字に及ぶ。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>近代中国において最も重要な日刊紙である『申報』を収める本データベースは、検索・表示システムも優れており、歴史・文学・哲学などの人文学だけでなく、法学・経済学・情報学といった幅広い分野のアジア・中国研究に必要な不可欠となりつつある。それゆえ、教員・学生への便宜を図り、アジア・中国研究の水準を高めることに貢献するために導入されたが、ユーザー数が 1 と限られていたため、複数の教員・学生が同時に使用できない状態にあった。本データベース導入後、すでに他者が使用中のために使用できないケースが多々生じており、本データベース導入についての周知が学内で進むことによって利用者が増え、こうしたケースが頻発しかねない状況にあった。本事業によるユーザー数の増加によって、かかる事態はほとんど生じなくなり、本学の教員・学生の安定した利用が可能になった。</p> <p>本データベースは、本学の各部局において共同研究を行う研究者などにも広く利用されることが期待されるが、ユーザー数が限られていたため、限られた本学滞在時に使用できないケースが生じていた。本事業によるユーザー数の増加は、こうした事態を回避し、本学の国内における学術ネットワークの維持・強化に寄与している。</p> <p>本データベースは、海外の有力大学・研究機関などでは、すでに基本的なインフラになっており、かつ多くの研究機関ではユーザー数も複数である。アジア諸国から学生を受け入れたり、アジア研究を行っている海外の研究者を京都大学に招聘したりする場合に、本学においてこのインフラを常時使用できる形で提供することは不可欠であり、本事業によってそれが可能になった。</p>

